

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300807		
法人名	社会福祉法人北光会		
事業所名	あずみ野グループホーム		
所在地	〒038-0241 青森県南津軽郡大鰐町鯖石字浅瀬淵35-5		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は木造づくりで、天井が高く、開放感があり、木のぬくもりが感じられます。</p> <p>隣接されたD/Sは、月2～3回の歌・踊り等のアトラクションがあり、入居者の皆様も出向き、地域の方々と交流を図り、気分転換をしています。</p> <p>個別・グループ等のドライブの機会を設け、四季を肌で感じ、自然にふれています。</p> <p>各事業所の行事等へも参加、状況によっては不参加も自由、個別の支援をしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>緑の多い環境の中にあり、玄関から入った途端に木の香りが清々しく、癒される事業所である。自分で入りたい事業所を作るという経営者の思いが、間接照明や天井の高さ、木目の壁、家具、フロアー、風呂場の作りに表現され、温もりのある共用空間となっている。その中で、一人ひとりの入居者がその人らしく、住み慣れた地域で喜びを持って生き生きとした生活を過ごせるようにという理念の基にケアが展開されている。外出希望に合わせて、事業所の周りを毎日のように散歩したり、ドライブ等、認知症の方の周辺症状を緩和する為に寄り添うケアを実践している。イベントが多い事や同敷地内にデイセンターが隣接している好条件を活かし、地域との交流、協力が多くという事で、事業所入居の希望理由となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所独自の理念をかかげ、毎朝申し送り時に唱和すること、ケアの再確認により業務に努めている	法人の3つの理念である「入所者の喜び、職員の喜び、地域の喜び」に基づき事業所独自の理念を掲げている。入居者が地域の中でその人らしく生活していけるように、職員は毎朝申し送りの時に理念を確認し、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員となり、町内会へ加入、回覧板を受け渡し、地域の行事等へ関心を持ち、地域住民と同じ立場になれるよう心がけている。また広報の回覧依頼をしている	町会に加入し、所長は総会に出席してグループホームを知って頂くように努めている。広報誌も回覧している。又、同敷地内にあるデイセンターで、月3～5回程のイベントの時は一緒に参加して交流されている。その他童謡サークルの訪問、学生の実習の受入れと、日常的に地域の方が面会に見え積極的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトへ加入により、「認知症サポーター講座」へ参加、認知症に対する理解、支援の協力をして頂いている 地域の回覧へ広報配布、年1回地域の皆様へ行事へ参加して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、2ヶ月間の入居者の生活・状況報告、構成員より意見を伺い、見直し改善へ向けている	2ヶ月に1回、定期的に開催されている。家族、行政の担当者、地域の方と活発に意見交換され、気づきや助言をサービスに活かしている。	会議のメンバーに地区の町会長や民生委員、消防署の方にも参加して頂く事で、防災訓練への協力をお願い出来るのではないかと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況の変化時随時連絡報告実施、状況によっては相談に出向き助言頂いている、毎月入居待機状況報告実施	毎月入居者の待機状況報告を行っている。困難事例の状況を伝え、アドバイスを頂いたり、加算の事を聞いたり担当者で連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定、重要事項にも掲げられており、職員は身体拘束の禁止を理解し、日々のケアに取り組んでいる又研修資料等随時確認出来るよう設置している	職員は身体拘束をしないケアについて理解しており、身体拘束は行なわれていない。外出しようとする入居者を止めるのではなく、職員と一緒に付き添って散歩し、個別の意向に沿って対応している。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加、復命書の回覧、園内研修等で認識を強め、職員同士、禁止行為の意識を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるが、現在において支援の実績はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書なし、重要事項説明の際、施設の概要から施設側の説明、利用者、家族の思いを確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、家族・外部者からの意見を求めている 入居時の説明において、苦情、意見を述べて欲しい事、毎月家族へ近況報告の中で意見を求めている	意見箱を設置しているが殆ど意見はないので、面会時に家族から意見、要望を積極的に聞いて確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の中で伝達事項を設け、代表者側の意見を伝えている 職員側からの意見は随時設けている	毎月の会議やカンファレンスで職員から環境整備の事や、入居者との関わりの中での気付き等意見として出されている。出された意見、要望については運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員の就業状況を確認し、昇給対象者がある 時間外労働時、時間外手当支給がある 自己評価、個人面談の機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加する機会を設けている 園内研修等で発表の場を設け自己の向上に努めるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内、同業者間との交流の機会を設けているが、互いの状況により実現できていない。外部研修へ参加他事業所と情報交換などで学習の場としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人、家族の思い等話し合い、安心した生活の援助が出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前、利用後、家族より情報収集に努め、安心して生活の出来る施設の環境等伝え信頼関係づくりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人からの情報を基本に「安心できる生活の場」になれるよう、ケアマネ等からの情報を得て、ケア・サービスの優先順位を見極め支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「サービスをさせて頂いている」基本姿勢に基づき、「その人らしさ」を見出せるようケアに努めている「出来る」ことを楽しみになれるよう入居者間、職員との関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の変化時の連絡 随時対応、家族の意見等伺っている 本人の思い状況の報告を毎月個別に手紙で連絡している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時通院していた医療機関へ、利用していた理美容店の利用など地域の中で生活している関係の支援の継続に努めている、又隣接のデイセンターへ出向き利用者間の交流を図っている	入居前に利用していた理美容院や衣料店へのショッピング等継続出来るように支援している。また、隣接されているデイセンターで地域の方と交流する等、馴染みの人、場所と途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活、行動の把握に努め、互いが良い関係づくりになれるようケアに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、安心した生活の継続が出来るよう関係機関へ情報提供、家族・本人の支援へ努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望の把握に努め本人の意志を大切に個別のケアに努めている	入居者の思いに出来るだけ添うように努め、喜びになれるような話かけを日々心掛けています。自分で意思表示出来ない方については、表情や動作等を観察して、意向に添えるように個別のケアに取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別生活情報の把握など利用されていたサービス機関、家族から情報収集により今までの生活が継続できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活の場において、個人の生活の場、安心できる環境が、楽しみに繋がるケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し、継続など日々の状況から安心できる生活援助のため家族からの意見、要望等を確認、会議を開催介護計画へ反映している	入居者、家族、担当介護員から意向の確認をし、サービス担当者会議にて検討され、思いや意見が反映されたケアプランを作成している。介護計画書の中に評価項目の欄があり、モニタリングが定期的きちんと行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録実施、介護記録は個別の気づき、継続ケアについて、受診、服薬についても連絡ノート等活用情報を共有、介護計画へ反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助、外出援助、買い物援助等個々のニーズに随時対応出来るよう職員間の連携で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	見慣れた、親しんだ地域へドライブ等で外出、菜園の野菜、花壇づくり等楽しみ気分転換を図れるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診されていた医療機関の継続、受診内容、服薬の確認、家族への連絡、継続的な医療に繋げている	入居前からのかかりつけ医や、希望する病院への受診を家族の協力を得ながら行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットⅠへ看護職員勤務において入居者全員の健康管理に努めている 緊急時の相談、指示等に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、又入院先へ訪問、状況観察、関係者、家族等と本人にとってより良い方向を相談できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴い、長期入院時においての方針を話し合う場を持っている 現状態になった場合は今後の方向、対応を他サービス機関と連携を取り、家族の意向を踏まえ対応している	入居時の重要事項説明の時に、重度化した場合と長期入院時においての方針を家族と話し合いしている。法人に特別養護老人ホームがある事で安心が得られている。入院した場合は入居者の状況を見ながら退居を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命法を受講する機会を設けている 緊急時のマニュアルはいつでも見える場所に置いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応に対する避難訓練実施、地域の協力体制を築く働きかけは行っているが、まだ不十分である	避難訓練は年2回以上行なわれ、一昨年は地区の消防団も参加して訓練を実施している。消火器、非常ベル等マニュアルに沿って繰り返し行ない、緊急時に対応出来るように努めている。	年1回は地域の消防他、近隣の方の協力が得られるように、訓練参加の体制作りを、運営推進会議で引き続き、呼びかけしていく事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で常に入居者に対して、人格の尊重を心がけて、声がけしている	一人ひとりのプライバシーを重視し、職員の声掛けとして、触れられたくない部分には触れないように配慮されている。部屋の表札は名字だけとしている。また、利用者への呼び方にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを表現できるような声がけをケアの中で努めている 介護員側の押しかけにならないよう自己決定しやすい、働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活の場が自分らしい空間となれるよう働きかけをしている 心地良い空間は日々の行動の中から把握に努めた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、衣類汚染時の随時の交換、洗濯等で清潔、保持、身に着ける個別のおしゃれ物に楽しさを持てるようケアに努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好品の提供で喜んで食されるように対応、食前、食後の食器等の準備等楽しみながら行えるよう支援している	食事の準備や片づけを、職員と一緒にエプロンを着けて生き生きと楽しそうに行なっている。会話を楽しみながら家庭的な雰囲気です卓を囲んでいる。事業所のこだわりで、毎日必ずデザートを付けており、おいしいと評判である。また、誕生日には本人の好みのメニューを提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の残食調査、水分摂取量、体重の増減の把握に努めている、水分等は摂取量確保の為、嗜好品を取り入れて対応 献立は栄養士が作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、義歯洗浄液等使用にて清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握、声がけの方法等個別の特性に沿ったケアで対応 おむつ使用量が減っている入居者有り	オムツは使用せず、リハビリパンツに尿取りパットを使用している。排泄チェックにて、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導する事により自立支援に努めている。その結果、リハビリパンツの使用枚数が減ってきているという効果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便感覚の把握、食物、便秘薬、運動等で快便に繋げている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴時間はほぼ決まっているが体調、表情等により入浴の順番を考慮、入浴時のコミュニケーションで安心して入浴できるよう心がけている	マンツーマン対応で週2回以上入浴を行なっている。希望に応じる体制が出来ており、ゆったりと入浴を楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息により生活にメリハリが持てるよう、個々の生活リズムを大切に、安眠出来る環境を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握できるよう薬剤情報提供書により随時確認できるようファイルしている。服薬は個別に支援し安全に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事、楽しめる事を生活の場に提供出来るように努め、気分転換に繋げている、嗜好品の希望購入依頼時対応が楽しみごととしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近郊の散歩、ドライブ等で気分転換を図り、年2回家族、地域ボランティアの協力を得て外出を楽しんでいる	散歩やドライブ、ショッピングは入居者の状況、希望に合わせて日常的に行なわれている。また、紅葉見物等季節毎に外出行事も計画、実施されている。年2回はボランティアの協力を得ながら、遠方への外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金管理可能者は嗜好品等の購入出来ているが困難者は施設側で保管している 神社巡礼時は個々に参拝できる援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置により自由に使用できる また電話の取次ぎ、手紙の受け渡し等の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明、天井を高く、木造づくりの環境が柔らかい雰囲気である エアコン、パネルヒーター設備により快適な生活の場、花装飾等で季節感を採り入れている	建物全体が木造作りなので、木の香りとともに癒される空間である。居間には食卓やソファ、畳の小あがりがあり、廊下にも木製の椅子を置いて思い思いに好きな場所でくつろいで過ごせる。天井が高く、間接照明なので柔らかい雰囲気と、光、温度、湿度も管理が行き届いており、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室、ホール、テーブル席等で過ごすなど好みの場所で過ごせる環境づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活で、使用していた物を持ち込んで頂き、その人らしい居室が安心出来る生活の場となれるよう援助している	入居前に自宅で使い慣れた筆筒や位牌等を置き、自宅に居る時と変わらないように、安心して生活出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、自助車、自操可能な環境づくり、見守り、居室内の移動時の転倒、防止の為、センサー、手摺設置、自立安全確保に努めている		